

日本作文の会編

日本の 子どもの詩

福井





日本作文の会編

日本の
子どもの詩

福井

岩崎書店

日本の子どもの詩 18 福井

一九八二年九月二五日 初版発行

編者 日本文文の会

発行者 森山甲雄

印刷所 株式会社 K・M・S

株式会社 金羊社

製本所 小高製本工業株式会社

発行所 岩崎書店

東京都文京区水道一―九―二
電話〇三〇八二―九一三二(代)

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ゼンたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときときによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものです。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたのですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの「わらべうた」）としても、大きな意味があります。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「福井編」であります。どうぞ、ひとつひとつといねいにお読みください。

もくじ



1918
~
1945

8

電信柱の耳

鳥

夕日

鯉のぼり

9

雨

田植

川

このごろのけしき

10

ぼふら

雪

夕立

11

つばめの子

夕立

ふな

秋

昼すぎ

12

コオロギ

シタジキ

13

ユキ
すずめ

きゅうり

くも

14

せみ

空

夕日

お月様

15

おつかい

かぜをひいて

お寺のかね

16

ふとんほし

かきもち

雨

17

かみあげ

おもり

こおろぎ

18

ろうそく

雪枝

つめたい風

外燈

お節句

19

雪

ガラス洗い

20

水つかい

夕方

こ犬
私の手



1945
～
1959

22

おとうさん

からす

足

おんぶ

23

戦死したおとうさん

にんじゅつ

24

母のひるね

牛

25

しょんべん

地獄極楽

26

映画「ひろしま」

おばば

おほり

27

米とき

おとうさん

はな

28

ヘリコプター

山の上から

まど

29

テレビ

はっとり分校

みみず

かわらやのえんとつ

30

勉強

かあちゃんのしらが

31

えんぴつ

大工さん

32

雨風の日

田んぼがない

いやなかあちゃん

33

なきました

くもになったら

34

うんどうかい

かぜ

にわとり

35

ジェットき

山

まんげつ

いねかり

36

秋の夜

大漁旗

37

いねはこび

いねの中の母

38

山

台風

39

バラック

てぶくろ

ねんどの こうさく

じしん

ゆきだるま

べんきよう

41

そうじ

42

しも

42

けむし

43

しょうじはり

43

ちゃんはこび

43

おかあさん

44

お金

44

早く春がくるといい

45

左手

45

ハガキ

46

母

46

雪おろし

46

ある日の帰り道

1960
～
1969

48

なつ

子牛

49

おこりんぼう

九九のれんしゅう

にんげん

50

かえるの目

かまどの火

51

おこられた

51

おばあちゃん

52

両親学級

52

テスト

53

詩

53

おばあちゃん

54

シャボン玉

54

先生

54

ひまわり

55

きもちわるうて

55

へちま

56

かにのさかだち

56

かたつむり

57

どじょう

57

ぼくのきんたま

57

ひとりぼっち

58

先生の洋服

58

ほっかぶり取りと蚊取り

58

父の口ぐせ

59

お父さんとたばこ

59

田植え

- 我が家
60 こおろぎ
水れんとかえる
61 まんじゅうひろい
あさがお
62 まいづる
おちば
63 パートに行くおかあさん
け上がり
64 母のしらが
しかられた
65 母とけんかした夜
いねこき
66 基地の島「沖縄」
稲かり
67 ぼくの先生
手
石なげ
68 プリント
にらめっこ
69 おかあさんの手
赤ちゃん
70 かたたたき
かべ
こま
71 かあちゃん

- のこされた
72 おかあさん
ふぶき
大根あらい
73 たいひ
ぼくは王魚だ
74 母の手
山びこ
76 かわいそうなぞう
クレーン車
77 わたしの母ちゃん
わたしたちのススキ
わたしたちのあそび場
夫婦げんか
78 屋根
79 変身お母さん
80 三つの声
海のしかえし
まだ子どもだけど
81 わたしのともたち
ぼくの目



1970
～

82 ふくれたふぐ

83 おかあさんの たてつき

83 水たまレンズ

84 雨あがりのあじさい

84 ばあちゃんの歌

84 しん号

85 まき貝

85 おじぞうさん

86 ばら

86 あの子のおとき話

88 お金?

88 みがき

89 海で泳いだ日の夜

89 ゆかた

90 しゆくだい

91 へんなの

91 虫のくに

92 おなかの中のパーマやさん

92 子犬

93 おかあさんたちのおしゃべり

93 雪

94 かわいいすず虫

95 ぼくの好きな朝

96 むかしの敦賀は……

96 さみしい心

96 ぼくの改造

97 おかあさんといっしょ

97 おばあさんのおい

98 じよせつ車

98 ほかほかのおもち

99 わたしを おんぶ

99 世の中で一番大切なもの

100 おとうさん

100 一ばんぼし

101 てつぼう

101 ふきのとう

102 春が来た

102 ねずみの死

103 わたしを見ているおじいちゃん

103 花の命

104 見えない糸

104 私の手、母の手

105 紙飛行機

106 限りあるもの

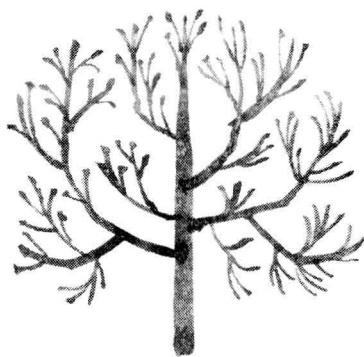
107 テストが終わったぞ!

110 ちよっぴりおとなに

110 この一年間

*

あとがき——福井県の児童詩指導のあゆみ
この本の編集をした人たち



1918～1945

(大正7年)

(昭和20年)

ここには、
雑誌「赤い鳥」が出ていたころに
福井県から投稿された詩と、
その後、福井の子どもたちが、
一九四五年の終戦まで
書いた詩があつてあります。
しだいに自分の生活を見つめて
書くようになったことがよくわか
ります。

電信柱の耳

西本義秀 高1

電信柱はどうだ、

耳を、

針金で

くくつてゐる。

大飯郡高浜校

烏

近藤信正 高1

烏、烏柿ほしいか、

お父さんにたのんでもあかんど、

お母さんにねだるとおくれるど。

小浜市口名田校

8

夕日

野口はつゑ 高1

まっかなまっかな夕日、

どこへ走る夕日、

まてまて夕日、

松原へはいった。

小浜市口名田校

鯉のぼり

柴田勘三 高2

鯉のぼりのしっぽに、

白蝶ちようがとまった。

ピンとはねたら、

びっくりしてにげてった。

大飯郡高浜校



雨

しぼしぼと

ふる雨、

三日つづいた

雨、

まどから

竹藪^{たけくさ}みえる、

木もみえる、

雨だれ

ちびたいな。

田植

今はいそがし田植どき

そこでは馬に田をすかせ

ここではなえを田に植える

西前千代三 小6

坂井郡加戸校

谷口政雄 小5

9

すかせる植るいそがしや
どうぞ秋までつごうよく
天気もつづけ雨もふれ

川

佐々木久弥 小5

大野郡朝日校

向こうに見える小さい流れ
さらさらさらと流れてる
今日は水が少いけれど
雨が降ったらどんどん流る
どんどん流れてどこも水

勝山市北谷校

このごろのけしき

山本きくゑ 小5

せみもみんみと ないている
たんぼのいねも あおあおと
かぜにゆられて なみがたつ

たんぽのくさを とる人の
あちらこちらに うたうこえ
わたしとろうか たのくさを
ああこのごろは あついとき
あれいそがしげな たぐさと
見るもつらそな たぐさと

大野市阪谷校

ぽぷら

平井純陽 小5

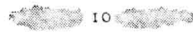
僕のお家の ぽぷらさん
なぜずんずんと いこなるか
(大きく)
去年は僕の 家こえた
今年(どぜう)は土蔵を こしている

勝山市野向校

雪

あらあら雪が

中村ひさゑ 小3



ふつてきた
向こうの山は
まっ白だ
何千万とも
分らない
白いちようちようが
まうようだ

大野郡富田校

夕立

島田二葉 小5

ザアザアザアと
あめがやってきた
むこうのやまはもうみえぬ
ゴロゴロゴロと
かみなりが
いきおいつよくなっている

大野市有終校



つばめの子

前田 栄 高2

つばめの子が大きくなって、
巣からこぼれそうだ。

足羽郡東安居校

夕立

前田 栄 高2

夕立の目、
かぜをひいてねていたら、
臼すりの時の
芋と柿を思い出した。

足羽郡東安居校

ふな

伊藤東吾 高1

小川のふなよ、

寒かるな。

こん、こん、ころり、の

あられが降るぞ。

大飯郡高浜校

秋

法本芳泉 15歳

群れ鷹、

小鷹が

渡ってく。

街道の村は稲刈りだ。

妹の死んだは

今ごろだ。

遠敷郡小浜町鹽竈

昼すぎ

吉田敏子 高1

孔雀が

羽をひろげたような日だ。

庭先の

梨のつぼみができた日だ。

しやくやくの花が

ひらいた日だ。

兄さんの

卒業写真がついた日だ。

太陽が、

おどっているような日だ。

坂井郡高椋校

コオロギ

山カゲノリマサ 小1

ネテイルト

ウチノコオロギガ

ナキマス。

カワイイトオモイマス。

マイニチ

コオロギガナキマス。

鯖江市惜陰校(指導)田中幸

シタジキ

高橋 守 小1

シタジキマワシタ

アカルイカゲガ

テンジョウヲハシツタ

ミンナガ

アラアライイダシタラ

ミンナガマネシタ

鯖江市惜陰校(指導)田中幸

ユキ

田中秀幸 小1

ユキガ

ゴミノヨウニオチテクル

シズカニシズカニオチテクル

(かぞえられないほど)
カンゼラレンホドオチテクル

カゼガフクトヒラヒラトオチテクル

タンクノ上

ユキガ一パイノツテイル

鯖江市惜陰校(指導)田中幸

すずめ

新橋嘉憲 小2

うちの前へ

すずめがとんで来て

やかましくなき出した

だれかあいずしたように

ぴしやんとなきやんだ

鯖江市惜陰校(指導)田中幸

きゅうり

納村幸代 小2

花は小さい きいろいろ

私の手よりも大きいは

きゅうりはだんだん長くなる

一日一日と長くなる

きゅうりの花が

13

きゅうりになる

鯖江市惜陰校(指導)田中幸

くも

北畑なつる 小2

私が

天を見ていると

天のくもが

すうっと

川のように

ながれていきます

鯖江市惜陰校(指導)田中幸

せみ

岡田清 小2

せみがないている

みんな ないている

あっちでもこっちでも ないている

おもしろがって ないている

みんな

よるこんで ないている

鯖江市惜陰校(指導)田中幸

空

田中秀幸 小3

ひゅうつ

よい天気だ

何だか

かおがうつるような気がする

鯖江市惜陰校(指導)田中幸

夕日

綿谷八重子 小5

とり小屋の中に

夕日がさしこんだ。

卵たまごの中まで

赤くさした。

夕日のしづむまで

赤い卵。

鯖江女子師範附属校(指導)岡島繁

お月様

中村千枝子 小5

「母ちゃん母ちゃん

どこへ行った」

なんの気もなく

お庭へ出たら

母ちゃんぼんやり

月見てた。

鯖江女子師範附属校(指導)岡島繁

おつかい

川瀬甚三郎 小5

まいど という

みせの おやっさんでてくる

こぬか 三合おくれ

ありがとごいしたという